

親  
子  
対  
談

父は直木賞作家、息子はカリスマタクシードライバー

# 天職に出合おうまでの 脇道、細道、回り道



志茂田景樹 作家 × 下田大気 タクシー運転手

# 数

々の職業を経て、現在、カリスマタクシードライバーとして脚光を浴びている下田大気さんは、作家・志茂田景樹さんの次男。一方、父の景樹さんも若いころから20種以上の職を転々としてきた。紆余曲折の果てに本当にやりたいことを見つけた二人が、お互いの存在と親子関係について語り合う

## 寂しくても 恨まなかった

景樹 いま僕はツイッターで人生相談をやっているのだけど、親子関係に悩む若い人がすごく多いんだ。

大気 たとえばどんな悩み？

景樹 10代では特に、親子のすれ違いに関する相談が多いね。子どもたちの「お父さん、お母さんは絶対にわかってくれない」という絶望をとっても強く感じる。少々甘えが入っている気もするけれど。

大気 そうか……。わからなくもないな。ウチの場合は少し特殊だったよね。物心ついた時には、親父はほとんど家にいなかったし。

景樹 フフフ。

大気 よそに女の人をつくって、家にはほとんど帰って来ないという状態が10年以上続いた。だから、珍しく親父が授業参観に来てくれると、本

当に嬉しかった記憶があるよ。あの「志茂田景樹」が父親だというのがすごく誇らしかった。

景樹 たまに家に帰ると、大気が自宅のブロック塀を相手に一人でキャッチボールをしていたのを見て、ある週刊誌で「ブロック塀が僕の父親だった」というような大気の文章を見て、胸にきゅつと痛みを感じた。なかなかいい文章だね。少年が黙々と塀に向かってキャッチボールする姿が臉に浮かんで。

大気 子どものころ、親父がいなくて寂しいと思うことはあったけど、放っておかれて恨めしいという気持ちはなかった。それは母さんが偉かったのだと思う。夫が家に帰って来ないから、怒りもストレスもすごくあっただろうけど、兄や僕に対して、親父の悪口だけは絶対言わなかった。

景樹 うん。

大気 でも思春期は、母親が嫌いだっただけで、すごく厳しくて、叩かれたこともあった。逆に親父には一度も叱られたことがない。

景樹 もちろん自分が親であり父であるとは認識しているよ。でも僕は軽いピーターパンシンドロームだね。姉たちと年の離れた末っ子だったから、両親に溺愛されて育ったんだ。遠足にも親がついて来たりして、す

ごく鬱陶しかった。だから自分は子どもとはほどよい距離を保ちたい。父という権威を振りかざして干渉したり、上からモノを言ったりするの嫌なんだ。

大気 兄貴は、有名人の子どもと言われるのに重圧を感じたようで、親父のことを隠していた。僕はちゃっかりした性格だから、二世ということにむしろメリットを感じていたよ。景樹 大気が高校生時代、いわゆる渋谷の「チーマー」をやっていたころ、パーティ券を売りさばくために、僕が見世物のように扱われたこともあるね。(笑)

大気 利用できるものは利用するという性格なもので……。 (笑)

景樹 そういえば一度、パーティにヤクザが乗り込んでくるという噂があった。騒動になったのを覚えてる？ あの時、母さんはこっそり大気の後をつけて見張っていたんだ。

大気 当時は知らなかったけど、大人になってから聞いたよ。

景樹 もしヤクザが出てきたら、すぐ僕に連絡が入る手はずになっていたんだよ。僕はそういう輩にも慣れているから。結局ヤクザは現れなかったけれど。母さんはかなり心配していた。

大気 親父は、僕が学生時代に遊び歩いていて、心配じゃなかった？

景樹 いや。チーマーでも暴走族でも、30歳、40歳まで続ける人はいないからね。たいてい普通の社会人になるものだよ。だから何も心配はしなかった。

大気 実家の家財道具を勝手に売ってお金にしたり、いろいろ悪さをしたけど、一線を越えなかったのは、厳しくも愛情を注いでくれた母のおかげ。いまでもすまないと思うもの。親父に対しては、自由奔放に生きてきた人だから、何とも思わないけど。

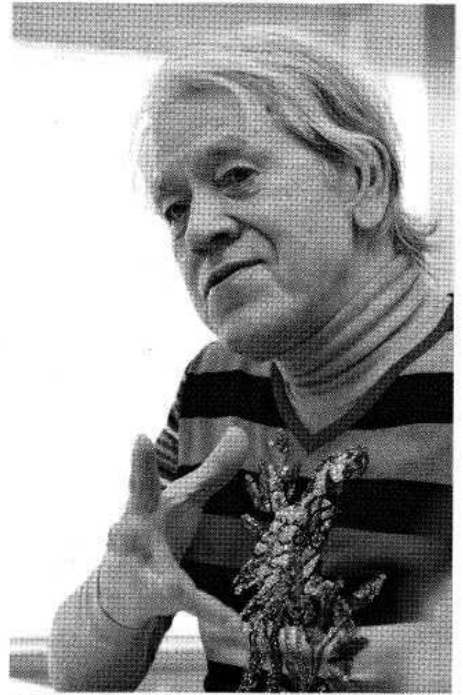
景樹 そう。フフフ。

大気 でも親父が家を出たのは、直木賞をもらって周囲の環境が急に変ったのがきっかけだね。そういう状況で、飲んだり、遊んだり、いろいろな女性とつきあったりするのには、僕も男だからすごくよくわかる。いい経験をしたんじゃないの？

景樹 わかってないね。いい経験じゃなくて、難行苦行だよ。外から見れば華やかでも、本人には煩わしく、後悔することのほうが多いものなんだ。

大気 そうなの？

景樹 女性関係だけではなく、いろいろ誘いも、楽しいこともあった。でも本当は、孤独の境地に入って自分ひとり向きあっている時が一番楽しいのではないかと思うことがあるよ。



しもだ かげき 1940年静岡県生まれ。中央大学法学部卒業後、さまざまな職業を経て、76年に『やっつこ探偵』で小説現代新人賞を受賞し、作家デビュー。80年に『黄色い牙』で直木賞受賞。近著に『自信をつくる。働くきみへ贈るカゲキの檄文』がある

大気 ああ、その気持ちは少しわかるような気がするな。僕も社交性はあるけど、実は運転席でのひとりの時間がすごく好きで、大切だから。

### 挫折や失敗から 学べばいい

景樹 僕はこれまで、子どもの進路や将来に関して注文をつけたことが一切ない。だから大気もいままで好きな道を歩いてきたけど、けっこう挫折も失敗もあったよね。

大気 うん。まず高校時代にテレビドラマで役者としてデビューしたものの、まるで売れなかった。

景樹 矢沢永吉さん主演の『アリよさらば』だね。台本が家のそのへんに放ってあったから、僕もちよっと目を通した。初回は結構セリフがあるので、「これは準主役級だな」と感

心したんだけど、2回、3回とだんだんセリフが少なくなつて。ああ、うまくいっていいのだな、と思つた。

大気 でも、親父は一切口を出さなかった。

景樹 ほかのクラスメイト役の子たちは、子役だったり劇団の経験者だったりしたでしょう。大気には、経験や実力が足りなかった。でもそれは自分自身で気がつかなければ仕方のないことなんだ。

大気 それから健康食品や宝石の販売、芸能プロダクションやバーの経営……。どれも長続きしなくて。24歳で2000万円以上の借金を抱えて自己破産したこともある。

景樹 ずっと、「もつとお金を稼がなければ」「ちゃんとしなくては」と、懸命に足掻いているような感じだった

## 天職って、もしかして少しずつ近づいていって発見するものかもしれないね(景樹)

たね。

大気 それは、あったかも。

景樹 大気は世渡りがうまいところはあるのだけど、一度滑つてうまくなり立ち上がれなくなってしまった。それがタクシー運転手をはじめたら、水を得た魚のように生き生きとした。まあ、これから先も滑ることはあるだろうけれど、失敗するたびに少しずつ学んでいけばいいんだよ。

大気 タクシーの仕事に出合うまでは、お金を儲けたいという気持ちはあっても、本当の目標が持てなかった。心から打ち込めるものが見つからなかったような気がするんだ。

景樹 最初、タクシーのことは母さんから聞いたんだ。彼女は「大気はタクシーの運転手をやるなんて言っているのよ」と声をひそめていた。でも僕は、本人がやりたいならいいじゃないか、と思つた。

大気 僕自身、タクシードライバーは年配の人の仕事というイメージがあったよ。でも、実は夢を追いかけると気がついた。乗車上限時間が、1日21時間、月13日までと決められているけれど、やり方次第ですごく儲かる。僕は年収800万円を得ているよ。

自分なりの工夫が売り上げにつながることが面白くてたまらないし、月17日はほかのことができるから、タク

シーの稼ぎを元手に夢だったラーメン店を持つこともできた。仕事を通して人間的にも成長できるんだ。

景樹 確かに、最近少し顔つきが変わつたね。

大気 毎日さまざまな年代、職業のお客様を乗せるから、本当に勉強になるよ。人の心理とか、景気とか、いろいろなことが見えてくる。

景樹 細かいお金、710円(都内初乗り運賃)の積み重ねが大切だということも知つただろう。

大気 細かいことを大切にできない人間が、大きなことをやるうと思つても絶対にできない。それがいままで見えていなかった。この先もタクシードライバーは一生辞めないよ。

### 飛びだすための 力を蓄えて

景樹 僕の場合は大気のような必死さはなかった。ひとつの職場で2、3カ月も働くと、人間関係が嫌になつてしまふんだよ。でも、高度経済成長期だったから、探せば次の仕事は見つかった。そこがちよっと違うところではある。ただ、回り道の経験を人生の中で生かした、ということとは共通していると思うんだ。

大気 僕はタクシーの職につく前に、半年ぐらい仕事がなく、ニートのような期間もあったけれど……。



しもだ ひろき 1976年東京都生まれ。ドラマ『アリよさらば』で俳優デビュー後、いくつもの仕事を経験し、2009年9月にタクシー運転手となる。業界トップレベルの年収800万円を稼ぎだすテクニックや運転手の日々を綴った著書『タクシーほど気楽な商売はない』がある

景樹 それも含めてすべて経験だよ。ニートの時も、僕は心配しなかった。本人を見ればわかる。こいつは少しアホだけど、根はしっかりしているから大丈夫と。(笑)

大気 たまたま先輩がタクシードライバーをしていて、誘ってもらったのがきっかけ。もともと車の運転は好きだし、都内の道はよく知っていたから。

景樹 高校生のころは、バイクも大好きだった。

大気 そうなんだ。それぞれの街が持つ性格を知っていることも、すごく有利。遊び回っていたころは自分がタクシীর客だったから、客側のニーズもよくわかる。たとえば夜遊びの帰りにタクシイーを探している人は、この時間はここにいて、とか。いままでの経験が役に立っていて、

本当に天職だと思っているんだ。

景樹 天職って、もしかして少しずつ近づいていって発見するものかもしれないね。僕は若いころ、営業職についてたけれど、頭を下げて物を売るのは自分に向いていないと思った。それから探偵社、保険の調査員をしてみたら、いろいろと調べる仕事で自分にとって興味深いことだと、だんだんわかってきた。

大気 やってみて、自分の好きなことに気がついたんだね。

景樹 調査員時代に、初めて作家志望の気持ち芽生えてきた。そして、建設関係の業界誌を経て雑誌の取材記者になって、そのかたわら新人賞への応募を始めた。直木賞をとった『黄色い牙』は、調査員時代に話を聞いた、秋田のマガギの話がモデルになっているしね。

### 3年間タクシードライバーをやって、初めて親父に認めてもらったという気がする(大気)

大気 僕も回り道をして、30歳を過ぎてからタクシイーに出合えて、本当によかったと思ってる。いろいろな道を通ったからこそ、いまの自分がいるのだから。

景樹 一回り成長したとまではいわないけど、半回りぐらいいは成長したかもね。(笑)

大気 3年間タクシードライバーをやって、初めて親父に認めてもらったという気がするな。これまで3年も続いた仕事はなかった。

景樹 そういえば大気はバイクに乗る前は、あちこち自転車で行くのが好きだったでしょう。

大気 小さいころから行動範囲は広がったね。自転車知らない道を走ったり、電車に乗って知らない街に行ったりするのが好きだった。

景樹 僕もウォーキングで、知らない道、小さな道に入り込んで歩くのが好きなんだ。時には袋小路にも行きあたるけれど、そのほうがいろいろな発見があるから。

大気 うん。わかるよ。

景樹 ツイッターを見てると、いまの子どもたちが可哀相だなと思う

仕事を通して  
人間的にも  
成長できるんだ



景樹 ニートは社会のシステムが生み出したもの。だから彼らばかりを責めるのは良くない。社会全体が、どん詰まりのところ、渦巻いている感がある。でももしかすると、若い人たちも大気のように、次の新しい社会に飛びだすための新しい力を蓄えているところなのかもしれない。そんなふうには、いい方向に考えたいね。

取られていい。でも、外の世界に引きつけられるものが少ないのかな。デジタルのゲームや何かはたくさんあるけれど。

大気 だから閉じこもってニートになる人もでてくるのかも。僕もニートのころは夢や希望が持てなくて、外に目が向かなかった。

景樹 ニートは社会のシステムが生み出したもの。だから彼らばかりを責めるのは良くない。社会全体が、どん詰まりのところ、渦巻いている感がある。でももしかすると、若い人たちも大気のように、次の新しい社会に飛びだすための新しい力を蓄えているところなのかもしれない。そんなふうには、いい方向に考えたいね。